

J R 姫新線岩山駅駅舎について

1. 名 称：J R 姫新線岩山駅駅舎

(ジェイアールきしんせんいわやまえきえきしゃ)

2. 所在地：岡山県新見市上熊谷 3 5 4 0 - 8

3. 所有者：新見市

4. 概 要：

姫新線岩山駅駅舎は、新見市中心地より北東方向へ約 6km、塩城山のふもとに形成された集落内に位置する。駅の東側には高梁川水系の支流熊谷川が流れる。

姫新線は、山陽本線姫路駅から分岐して佐用を經由して岡山県内に入り、美作、津山を經由して伯備線新見駅に繋がる約 157km の鉄道線路である。大正 8(1919)年、国鉄は工事を中断していた津山新見間を結ぶ作備線の一部路線を買収して同 10(1921)年より工事に着手した。西側の新見駅方面からは同 15(1926)年に着手となり、昭和 4(1929)年には新見岩山間を作備西線として開通している。

駅舎敷地は、駅舎を中心に線路に沿って南北に長く、西側の駅前広場を介して旧東城往来に接続する。駅舎は西面して建ち、南側には付属の便所棟と駐輪場を置く。建物は旧鉄道省の基準に則って建築されている。

建物は南北に長い木造平屋建の切妻造鉄板葺で、正面入り口に切妻造の車寄を設け、ホーム側に下屋を通す。間取りは、南から待合室、和室 2 室で、東側に張り出した一角で駅員が列車の乗務員とやり取りを行えるようになっている。

駅舎は旧鉄道省の基準に則った小停車場の木造建築で、昭和 4(1929)年開業時の建築とみられる。昭和 25(1950)年以降に一部増築、昭和 50(1975)・56(1981)年に内部改修、平成 28(2016)年に屋根を棧瓦葺から鉄板葺へ改修は行っているものの、古い時代の駅舎の姿をよく残す。駅名は地域に所在する神社に由来し、開通後には木炭輸送で旧熊谷村の産業を支えるなど、地域の歴史と深いつながりがある木道駅舎である。

5. 建築年代等：昭和 4 (1 9 2 9) 年頃/昭和 5 0 年・平成 2 8 年改修

6. 登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの



位置図 (縮小)



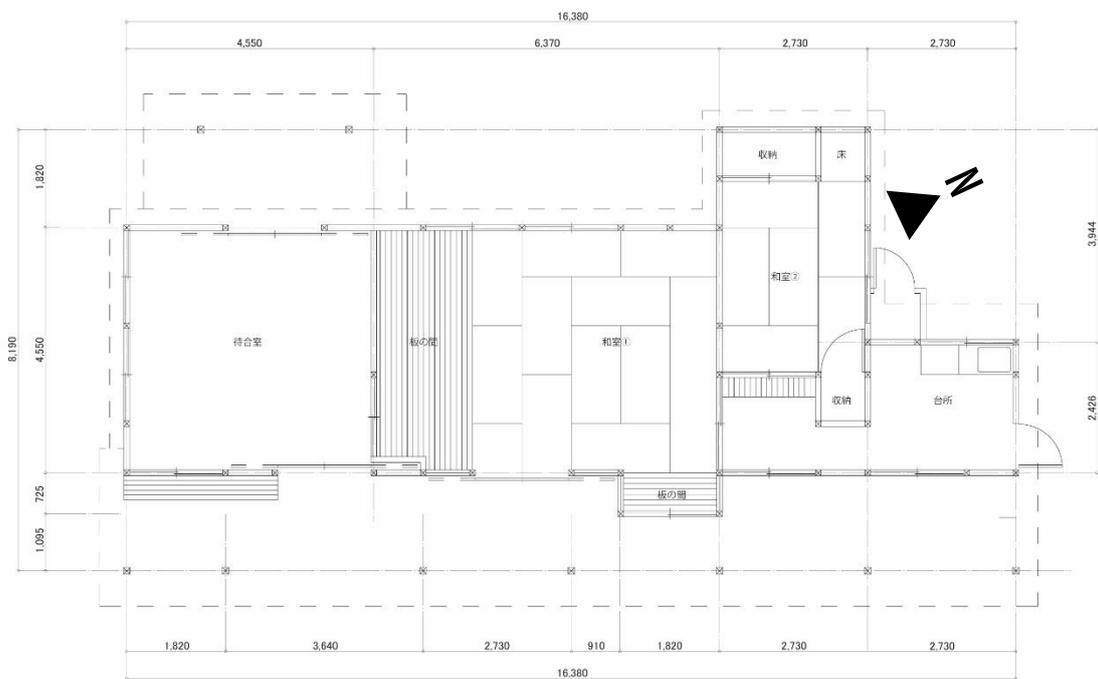
位置図 (拡大)



J R 姫新線岩山駅駅舎 正面



J R 姫新線岩山駅駅舎 待合室



J R 姫新線岩山駅駅舎 平面図面

【用語解説】

- ・切妻造（きりづまづくり）：書物を半ば開いて伏せたような屋根。
- ・車寄（くるまよせ）：建物の玄関に設けられた、自動車を横付けして乗り降りするための庇（ひさし）付きのスペース。
- ・下屋（げや）：片流れの小さな屋根の下部空間を指します。

○登録有形文化財（建造物）について

平成 8 年 10 月 1 日に施行された制度。この登録制度は、近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受けるまもなく消滅の危機に晒されている多種多様かつ大量の近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していくために作られたもの。届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるもので、従来の指定制度を補完するもの。

○登録有形文化財（建造物）の登録基準

建築物、土木構造物及びその他の工作物（重要文化財及び文化財保護法第 182 条第 2 項に規定する指定を地方公共団体が行っているものを除く。）のうち、原則として建設後 50 年を経過し、かつ、次の各号の一に該当するもの

- 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- 二 造形の規範となっているもの
- 三 再現することが容易でないもの

○新見市内の登録有形文化財（建造物）4 件

1. 竹本家住宅主屋（千屋実、旧いろりの家） 平成 26 年 4 月 25 日登録
2. 竹本家住宅長屋及び米蔵（千屋実、旧いろりの家） 平成 26 年 4 月 25 日登録
3. 戸田家住宅主屋（上熊谷） 令和 4 年 10 月 31 日登録
4. 旧太池呉服店店舗兼主屋（新見） 令和 7 年 11 月 17 日登録